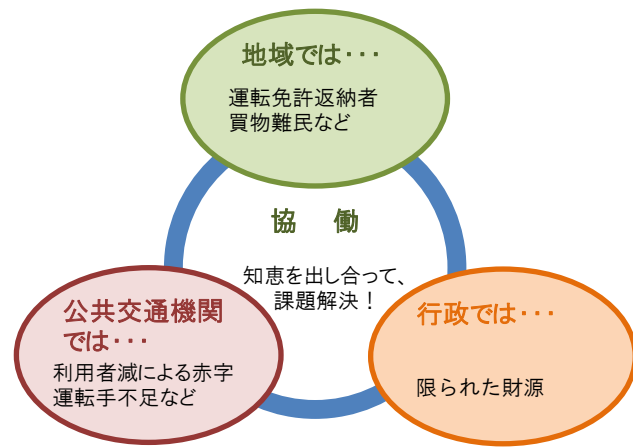
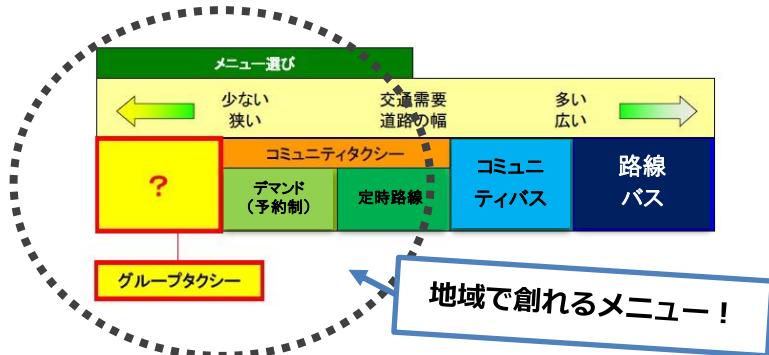


【公共交通を取り巻く課題。ともに取り組みましょう！】



【地域の話し合いで生まれたグループタクシー】



山口市の主な支援制度

- 相乗りするほどお得なグループタクシー利用券...65歳以上で最寄りの公共交通機関から1km(75歳以上700m)以上離れている方に距離に応じて300円、500円、700円の利用券を年間60枚交付
- 福祉タクシー利用券...障害者手帳をお持ちの方に300円の利用券を年間40枚または80枚交付
- おでかけサポートタクシー券...要支援・要介護認定を受けている方、介護予防・日常生活支援サービス事業対象者に300円の利用券を年間40枚交付(グループタクシー・福祉タクシー・おでかけサポートタクシー利用券の重複申請は不可)
- 福祉優待バス乗車証...70歳以上、市内の路線バスに限り一乗車100円
- サイクル・アンド・ライド、パーク・アンド・ライド(乗り換え専用の駐輪場・駐車場)
- ノーマイカーデー参加登録者への毎月第3金曜日のバス半額割引、協賛店舗での特典サービス
- バス停上屋設置の補助金
補助対象経費の2/3以内、
補助限度額70万円

詳細は、山口市
交通政策課まで
お問い合わせく
ださい!

創ろう!守ろう!みんなの公共交通 地域検討会 かわら版

吉敷・平川・大歳 編
平成29年5月発行



参加者アンケートより<13名回答>

Q地域検討会への参加により公共交通への理解が深まりましたか?

- ①深まった 8人
- ②どちらともいえない 4人
- ③深まらなかった 1人

Q公共交通を利用しようと思えますか?

- ①引き続き利用する 5人
- ②これからは利用する 7人
- ③わからない 1人
- ④利用しない 0人

Q公共交通を守る必要を感じましたか?

- ①感じた 12人
- ②どちらともいえない 1人
- ③感じない 0人

Q地域での話し合いの必要性を感じましたか?

- ①感じた 12人
- ②どちらともいえない 1人
- ③感じない 0人

【感想(抜粋)】

- コミバス利用の促進のため、理解を深める運動が必要。吉敷地域交流センターへの延長は検討して欲しい(利用者の増加が期待できる)
- 市役所の職員が率先して公共交通を使う。過疎地域こそ必要である。その地域の意見を聞いて対策を立ててはどうか。グループタクシーは行き先、目的地が違うのに、最寄り駅までの距離で決する方法が問題がある
- 結論ありきでの検討会
- 高齢化が進んでいます。この先10年の事を考えて施策をすべきではないか
- 公共交通を守るためにという課題ではなく、交通移動手段を考えるということにすれば、その地域の中で色々な考えが出ると思います

今後に向けて地域の話し合いを応援します!
詳細は、交通政策課にご相談ください。協働推進課とも連携し、専門家のサポートも受けられるように調整します。

山口市では、市民が将来に不安を感じることなく、安心して生活できるよう、マイカーに頼り過ぎず、移動手段の軸足を公共交通へ転換していくために、まちづくりや地域づくりなど総合的な観点から山口市では「山口市市民交通計画」を平成19年に策定し取り組んできました。

その中で、交通弱者のためになんとかしたいという思いから、コミュニティタクシーの運営組織(小鯖・宮野・嘉川・小郡・秋穂・佐山・阿知須・島地)が立ち上がり、地域が主体となり、地域のニーズにあったコミュニティ交通が整えられました。また、更なる交通弱者への対策としてグループタクシー(相乗り)の仕組みも新設しました。あわせて、都市核、地域核間を結ぶバスや鉄道についても維持強化を図ってきたところです。

しかしながら、鉄道や路線バス等の利用者の減少や、運転手の不足により、路線の廃止や減便につながっている状況です。一方で、これからの高齢社会の中での運転免許返納者が増えるなか、ますます困る人が増えると推測されます。また、移動手段を持たない若者や通勤者にとっても、公共交通は移動手段として必要不可欠なものです。

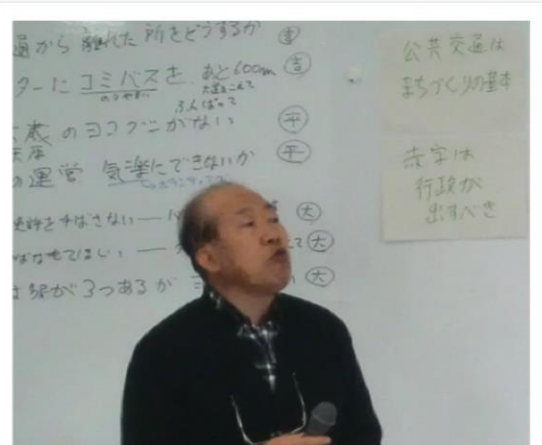
この現状を打破し、「クルマがないと生活できない山口」から「クルマがなくても生活できる山口」に転換し、安心して住み続けられる、クルマに頼り過ぎない交通まちづくりを目指して、「第二次山口市市民交通計画」を平成29年度中に策定することとしています。

そこで、地域の皆さんに現状を理解していただくとともに、地域の事情やニーズをお伺いし、より良い交通のあり方について、一緒に考えていくため、市内を10ブロックに分けて、去る3月に地域検討会を開催しました。

3月7日（火）大歳地域交流センターにおいて、17名の参加のもと、地域検討会を開催しました。

最初に山口市市民交通計画についてご説明し、現状の課題をわちあひ、専門家の意見を頂き、課題を解決するアイデアを出し合いました。その概要をお伝えします。

この検討会を契機として、各地域の機運が高まり、それぞれの地域にあった地域公共交通を検討するための、二回目、三回目の勉強会につなげていきたいと思います。



大阪大学教授 森栗茂一氏



■アイデアいろいろ■

利用促進策

ラッピングバスを走らせる(子どもも乗りたくなるような)

鉄道やバスを利用して病院やスーパーにきた人に粗品、割引券、駐車無料券を配る

鉄道やバスから遠くに住んでいる人には、自転車購入割引券を配布する。

パーク・アンド・ライドをもっと広報して、利用者を増やす

高齢者がバスに乗りたくなるような仕組み。キャンペーンを行う。(例えば年金支給日に)

■現状をわちあう！■

- ▶ コミュニティバス
 - 現在1時間に1本。せめて2本に吉敷地域交流センターまでの延長を期待。あと600m。40秒
 - 要望しても、何ら対応されていない
 - コミュニティバスの路線延長
 - 大内と平川を結ぶコミュニティバスがあればよい
 - 吉敷、大歳、平川をまわるコミュニティバスを
- ▶ 路線バス
 - 行政（地方公共団体）主体となって、公共交通バスの運行をすべき
 - 1～2時間に1本の運行では、無駄な時間が発生し、利用しにくい
 - バスの料金が高い
 - バス停までの距離が長い
 - バス停の雨よげがない
 - 路線の拡大
 - 市役所職員は公共交通機関を使うこと
 - 平川から矢原駅、大歳駅に行く交通網があればよい
 - 山大通りから中央高校方面への公共交通機関がない
- ▶ 鉄道
 - 山口線の存続
 - ハブとなる駅がなく、乗り換えが不便
- ▶ コミュニティタクシー
 - 大歳地区で導入の検討をしたが、まだ今は利用が見込めず時期尚早となった
- ▶ グループタクシー
 - 利用要件が厳しい
 - バス停からの距離要件をはずして欲しい
 - 距離要件を300mにしてほしい。
 - バス停まで送ってもらっても仕方がない。そこから買物、病院までが遠いので
- ▶ 車中心の社会
 - スーパー、病院に駐車場が整備されすぎている。
- ▶ 不安
 - 現在の移動は車だが、10年後は自分自身どうなるか



運転に不安を抱える人たちが、どうすれば安心して免許返納できるか

コミバスの延長も一つの提言
いろんな議論をして、地域で考えていくことが重要

要望では変わらない。行政は地域主体の議論をサポートしてほしい。



コミュニティタクシーの検討をしてみたい

大歳と平川との交通に対する検討会

大歳と平川でのコミュニティタクシーの運行を両地域で一緒に検討していく

各地域内の移動は、各地域づくり協議会においてコミタク等の運行を考えるとよい

コミュニティタクシーの運用範囲の拡大

高齢者への聞き取り調査の実施

地域で公共交通について検討する組織を行政と地域と一緒に becoming

コミュニティタクシーの運用ノウハウの周知

地域住民と行政と一緒に進めるべき

～誰もが安心して暮らせるための交通まちづくり～

■公共交通は社会のインフラ

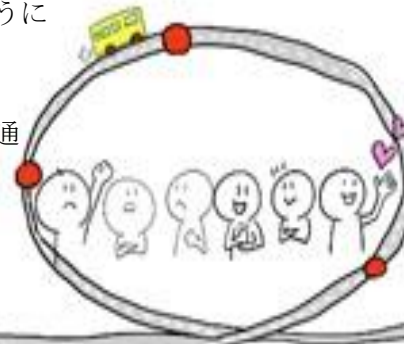
- ・公共交通を考えることは、まちづくりを考えること
- ・誰もが自分の意思で移動できるように (高齢者・子育て世代・高校生)

■集い歩くことが賑わいに

- ・生活に必要な施設をつなぐ公共交通ネットワーク
- ・多少の不便も「健康増進」と割り切る

■こどもの教育

- ・こどもの社会との関わりが増す



これから地域で進めるために・・・

この地域の課題は、山口線、15分～20分間隔で都市核間を結んでいるバス路線を利用するには便利のいいところだが、地域内を動こうとするとなかなか上手いところがあるところ。

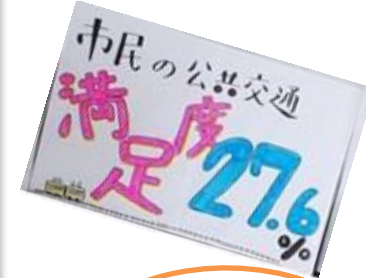
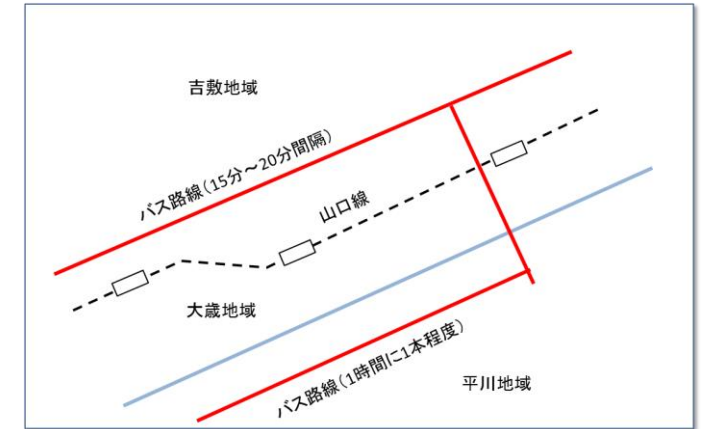
コミュニティバスは、実証運行を続けているが、一定の利用者があり基幹交通に近い役割も持っている。定着させるにはもっと利用を増やすことが必要だが、そのためには乗りやすくなければならない。現在の所要時間50分～1時間が伸びると、今乗っている人の利便性の低下につながる可能性もあり得策ではない。

コミュニティタクシーは、地域の中をまわる。この範囲とは、地域の生活圏のエリア内と考えるのは有り。地域の中でどういうニーズがあるか、どういう方法だったら自分たちでできるのか議論していただければ有り難い。

公共交通を考えることは、まちづくりを考えること。われわれ専門家も全力で応援します！



交通ジャーナリスト 鈴木文彦氏



地域内交通の充実！
地域ニーズの把握！
地域での話し合い！

みんなで創る
持続できる
地域の交通！

クルマがないと生活できない山口から
クルマがなくても生活できる山口へ

